

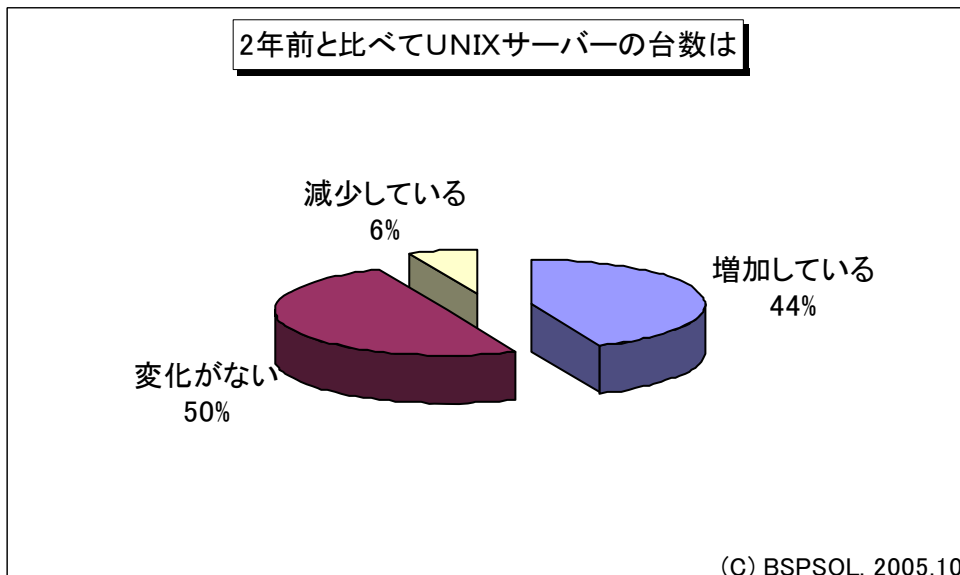
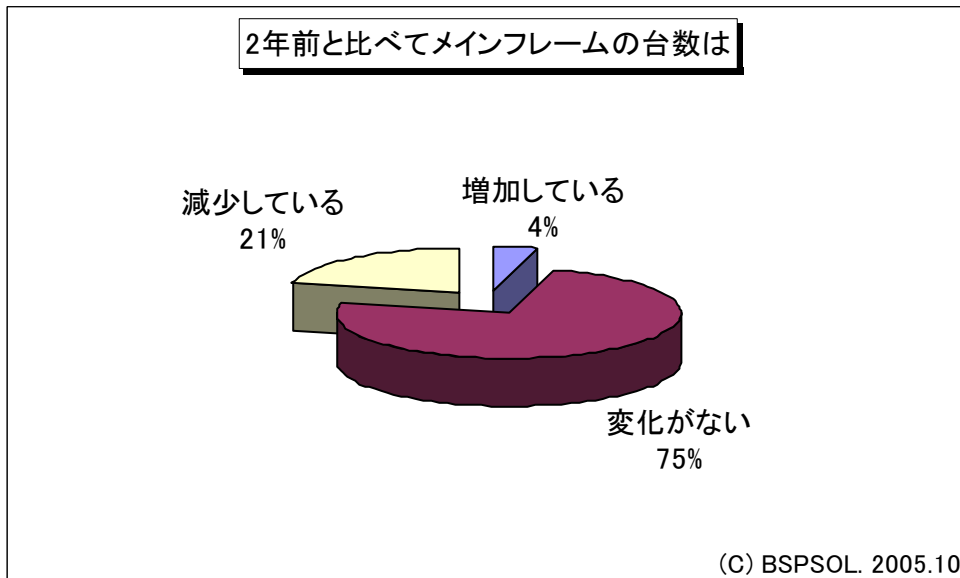
## 運用環境の変化

### ①業種別コンピュータ運用台数

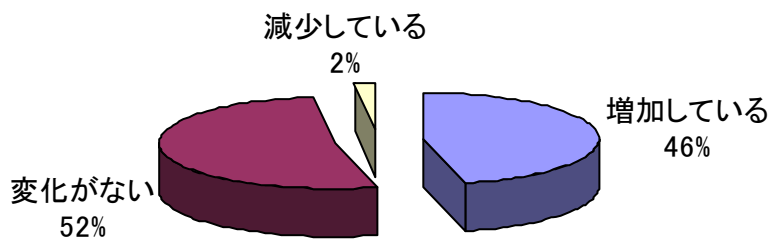
（一社あたりの平均保有台数：小数点以下四捨五入いたしました）

	メインフレーム	UNIX	Linux	Windows サーバ	Windows クライアント
製造業	2台	41台	8台	127台	3768台
流通・サービス業	2台	46台	29台	116台	3074台
金融・証券・保険業	4台	106台	18台	164台	4646台
IT関連業	8台	212台	41台	188台	910台

### ②コンピュータ運用台数の変化

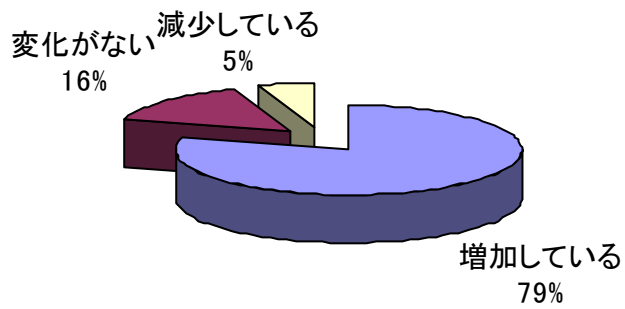


2年前と比べてLinuxサーバーの台数は



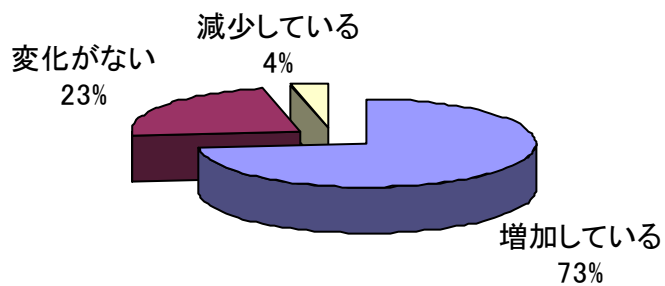
(C) BPSOL. 2005.10

2年前と比べてWindowsサーバーの台数は



(C) BPSOL. 2005.10

2年前と比べてWindowsクライアントの台数は



(C) BPSOL. 2005.10

(主なコメント)

- PCサーバーの能力があがったためUNIXサーバからLinuxやWindowsサーバを増やした。また切り替えた。
- メインフレームの業務をUNIXに機能分散を図りつつある
- メインフレームからサーバ系への移行
- 人員減少に伴いクライアントは減少している
- ダウンサイジングよりUNIXやWindowsサーバが増加している
- 事業所単位にサーバを購入しているためサーバの数が増えているが、会社全体としてのシステム経費として捕まえておらず問題と感じている。PCサーバ能力が上がった為、Win, Linux系が増加。
- ホストの業務をUNIXマシンに機能分散を図りつつある。・部門サーバをデータセンターに集約化を図っており1時的にWinサーバが増加・クライアントは従業員の減少に伴い減少した。外部要員増加と相殺でも減少。
- 事業所単位でのサーバ導入が、価格の低下と業務的な側面から増加している。(システム部門で歯止めをかけられない) 事業所内でのコスト増が発生しているはずだが、システム経費として捕まえておらず問題と感じている。
- 社員数の増加による、専用端末の追加。客先開発環境の多様化による、作業・学習環境の追加。  
要員の増加
- グループ会社基幹サーバ統合 (AS400)
- 部門サーバ統合(全社部門配置サーバをマシン室に統合管理)
- システムのダウンサイジング期間である為 運用台数が大幅に増加している。
- センターがデータセンター的な位置になったことで、従来基幹システム中心だったのが、各部門で個々に持っていたサーバが取り込まれるようになった。
- クライアントは1人1台になりつつある。(グループウェアの導入。)